

幼稚園の遊戯について (承前)

——遊戯講習會講演大要——

高橋 キヨウ

私は或る時青年會館へバスケットボールの試合を見に参りました。丁度外人學校の生徒ティームと日本人のティームとの仕合で御座いました。戦ひの半ばで突然に停電致しました。今迄盛に聲援しておいでになつた日本の方々も急に鳴りをしづめられました。會館は誠に火の消えを静けさで御座いました。暫く闇が續きました。係りの方々は早速に其の萬一に備へておかれた蠟燭に點火して要處要處にたてゝまはられました。何の故障であつたかなかく電氣が参りませんでした。日本の方々の間には小聲ながら倦怠の氣が其のつぶやき

にあらはれかけました。闇の底にキラメク燈火の一つが靜かに持ち上げられました。ゆれるよと見た次の時、一齊に合唱がはじまりました。光の線は動きました。歌聲うたごゑはそこゝから加はりました。暗の中にひゞく歌詞は外國のもので御座います。追ひかけ追ひかけ、彼の人達は謠はれました。パツともとの明るさになりました時、今まで指揮しておいでの方が白髮の御老人であつた事を見ました。今まで夢中になつて居て氣がつかずに居ました澤山の外人の中には相當の御年配の方も交られた。紅唇の娘さんも交つて居られた事でした。

あかりがもとにかへれば即ち仕合は續行せられました。光の中も闇の底も、彼の方々の爲めには、等しく樂土であられます。うたへる人は幸で御座います。更に自分の身一つさへあれば、樂しみ得る人は幸で御座います。闇の底にも、清く晴々と……衆と共に……遊び得る人は幸でなくて何で御座いませう。

子供の王國は遊びの世界で御座います。子供は捨てておいても一日中よく遊びます。よい連れがあればそれは一層倦きる事を知りませぬ。

扱。本題の遊戯。その遊戯の學說にいろ／＼御座います。皆本統なので御座いませう、そして諸説並立して居ります所を見ますればその一つ一つの御説は或は遊戯全部を説き盡して居られるのではないらしく存じられも致します。こゝにそれを論じる事は必要かも知れませぬが私に其の力もなく又此の際時も御座いませぬ。先生方の御意見御

研究に御ゆづり致しまして直ちに唱歌遊戯に移ります。

唱歌遊戯は子供の自然の活動性に適應し、唱歌に伴ふ表現的動作に依つて、其のよろこびを深め、子供心を豊かに養ひ、全身の發育を助長するもので御座います。

原始人や子供は謠つて居る内に踊り出して來るものである。それが、あたりまへである。といふ事で御座います。謠ふ事は踊りに依つて踊る事はうたふ事に依つていよ／＼高潮せられて參ります。

子供が蓄音機をきいて居る内に、又は、廣告屋のかね太鼓を聞いて居る内に踊り出す例は常によく見ることで御座います。大人であつても歌つて居たり、又、人が、うたつて居るのを聞いて居りますと、つい指先きからとも何處からともなく動き出して參りますのを覺えます。

これ等に依りまして、大體唱歌遊戯がわかりになりまして御座いませう。以下氣のつきましたことどもを申し上げます。

(一)

夢の國、遊戯の國、自由な信真な子供の世界、日々伸びて参ります豊かな子供の王國。人形を持つてば、直ぐに御母さんになりますし、棒切れを持ちますれば又直ぐに大將になります。事が出来ません。手の中から鳩を出し、一枚の板から、よく電車、飛行機、軍艦、何をでも創り出す事が、出来るので御座います。

私共は、いつの間にかはる／＼と参つてしまひました、惜しげもなく置き忘れて参りました。なつかしい幼な心、私共魂の故郷へかへりませう。子供達に導かれ子供にかへりませう。そして子供と援け合ひ、そして子供を導いて参りませう。子

供の相手を致します時には、何よりもまづ、その身が、子供にならねばなりません、これがやがて唱歌遊戯の相手をします時のころで御座います。

(二)

子供は凡てに驚異を感じ、何にでも神祕を認めます。この心にこそ尊い生命が宿つて居るのでは御座いますまいか。

又子供は暗示にかゝり易う御座います、恐ろしいやうに暗示に動きます。

動作は、その子供の氣分氣質から生れますが、又逆にそれへも影響致します。

唱歌遊戯に於て行ひます動作は、唱歌(詞 曲)から來た感じを、自然に、率真に、表現したものでなくてはなりません。それは時に、詞曲の意味を補ひ、其の趣を強めるもので御座いますが、不自然を強いる事があつてはなりません。

子供の前には常に敬虔の心で立たねばなりません。何所迄もはてしなく伸びやうとする子供、何をでも尊み何をでも、自分の手本としやうとする子供、すみきつた水のやうな子供、純真無垢な、その前には實際襟をたゞさせられます。心が清め盡されます。遊戯の動作もとよりながら、子供の前にたつものの態度、言葉動作まで、常にこの子供の相手になりますのにふさはしいものであつてほしいと存じます。

子供はほんとうに大人よりも常に自由で御座います。新しい世界を見出す事が出来ます。

假にも「大人の考へ過ぎた」「大人じみた」又は「偏した」ものをさせる事があつてはなりません。見せる事さへ怖れねばなりません。

さりとて、放任してはなりません、眞に正しいもの、美しいもの、自然なもの、の芽を啓發するのが大人の役で御座います。

(三)

子供の活動性を満足させるやうに唱歌遊戯に於て行ひます動作は、大きく、伸びやか、である事が大切で御座います。

技巧の末に拘泥して、眞の活動を制限してはなりません。

(四)

動作は「美」であつてほしいと存じます。

美醜の論はなか／＼むつかしう御座います。

「幼児の舞踊は藝術には相異なるが凡ての他の幼児の藝術と同じく所謂原始藝術に屬するものである。原始藝術は純生命の藝術である文化藝術のやうに美として分化した藝術でもなく型として洗練せられた藝術でもない。そこで美ではあるが美そのものが浮き出て居るのでもなく、型

はあるが型としての殿しいきまりが既成せられて居るものでもない、特に舞踊に於てそれが著しい。心のリズムに踊りはするが美の爲に踊つては居ない。表出の形は持つて居るが形の味にまで築かれてはゐない。従つて幼児の舞踊は全

生活で自然で自由なものでなければならぬ……

……と倉橋先生が仰せられて居られます。

子供らしい、美しさ、而もその人らしい調和のとれた美しい動作であつてほしいと存じます。

(五)

餘りやかましく申しましては遊戯が遊戯にならぬ事になるさうか、ひが御座いませうかとも存じます。がやはりそれらの遊戯にはそれらのその遊戯の目的を確立してゐかねばなりません。「日の丸の旗には」そして又「ゆりかご」にはそれらの持ち前が御座います、ねらひどころがちがひますし

受ける影響も當然違つて居ります。各々の違ひにこそ其の遊戯の生命が御座いますし其の存在の意義が御座います。それらのものを持つて自らも行ひ、子供の前にもたゝねばなりません。

(六)

「内なるものゝやむにやまれぬ發露」凡ての行爲行動はかうであつてはじめて本當のものになるのでは御座いますまいか。唱歌遊戯も亦子供の自然の活動性に投じて自發的にさせて頂き度いと存じます、生き々と愉快にさせてほしいと存じます。御話し又は其の他の方法に依りまして想像の世界を豊かにし、幾度も繰り返して唱歌させなど致しまして、子供が知らず識らず、自ら動き出して來ますのをまつやうに致します……どのやうな種類の運動をどのやうな線で描き出しますか……遂に子供が動き出したらよく觀察し、機を見て其

の自然を巧に伸ばし躑躅します事が大切で御座います。

(七)

教授の方法は、遊戯の材料に依り、又人……授ける人、受ける人……に依りましてそれ／＼相異致します。即ち概括的に全體を教へた後ち部分的に深く究めるもの、又部分から全體に入りますものいろ／＼で御座います。何れに致しましても、教授は注入……單なる模倣……を避け、子供の自發……創造……活動を誘導致しますやうに致し度いと存じます。

(八)

材料の選び方

イ 年齢、性、其他から考へまして致します。其の人に適したものがよろしいので御座い

ます。大人の爲にはすぐれたものであつても、それが直ちに子供の爲によいものとはもとより限られないので御座います。

□ 其の遊戯を致して居ますれば致しますほど面白くなつて参りますもの、深みを持つて参りますもの、價値にふれて参りますものがよろしう御座います。

ハ 特徴を持つてゐますものがよろしう御座います。そして是等を偏しないやうに選ぶとで御座います。

× × ×

こゝろの感激を、線に色に繪筆をかりて現せば、繪畫になる、字にあらはせば、文になり、詩になり、歌になり、句になる、音に托せば、音樂になる。四肢や五體に表せば、舞になり踊りになります。「舞踊」唱歌遊戯は、其の本籍をこゝに於いて居ります。

唱歌遊戯は、何所までも、遊戯で御座いまして劇では御座いませぬ。

子供は生れながらにして詩人であり、藝術家で御座います。天才は永久に子供である、といはれて居ります。子供は、玉であり、混沌であり、又凡てで御座います。藝術家の眼から見ますれば、凡てのものが藝術だそうで御座います。禪家に問へば、常住坐臥是禪、といはれます。人は自己の體驗を尊しと致します。子供の前に立つ者は、まづ智識を豊かにし、技を磨かねばなりません。其の爲には、多くを見、多くを讀み、深く考へ、多く行ひ、心を養ひ、自分の教養を高め自分を育てる事が、一番で御座います。

× × ×

體溫の高い病人が何事も辨へがたくなり、囁言を言ふ際に、當時の事よりも、幼い時の出來事を口にする様であり、又、老耄して、間違つた事許

りいふ様な老年寄でも、子供の時代の話をする
と、少しの間違ひもなく、實に秩序整然としてゐ
ます。又精神病者でとりとめのない事を云ふ人
も、幼年時代の事は、明確に意識して居る例が多
い。これは何故であるかと申しますに發育盛りの
細胞に刻み込まれた記憶は永久に其人から去り難
いものである、と吉岡彌生先生の御話で御座いま
した。とりとめもないころの中にも、鮮かにの
こる、なつかしく、強い力、誰がもうゑになるの
で御座いますか。そのことを深く考へて頂き度
いと存じます。

一人の青年がありました、素行が修まらず、兩
親が忠告しても、親戚が、いさめても、放蕩をや
めませぬ。遂に親族會議を開いて、いよく除籍
を斷行するに決しました。その父親が、いざ捺印
しやうとする際に、今迄黙して居た母親が、父親
の手にすがつて「あの子を許して下さいとへあ

の子の爲に財産がなくならうとも、あの子を他人にたくありません」と泣いて頼みました。母の心の中から叫ぶ、親の力は其青年を感動させて其の母の心に叛いて居た事を懺悔して生れ代つたやうになつたそうで、御座います。

愛の力、まことの愛の力こそ、よく私共を導いてくれるで御座いませう。私共に大事な事を教へてくれさせてくれるで御座いませう。以上述べ來りました事を愛の心にお読み返し下さいませ。子供は愛に育ちます。子供に與へる唱歌遊戯は、愛の心がよくこれを知つて居ります。今日の日本を、日本の子ども、を、現在から、より、かどやかに將來へ導くで御座いませう。

鎌倉佛敎婦人會附屬事業として、今回、久野女史を園主、中村女史を園長とする潤光幼稚園が設立された。

關西聯合保育總會

十月十七日 關西聯合保育總會が神戸市に於て開かれる、議事、研究題左のとほり。

一、幼兒に適應せる最新の製作物に就て承りたし。

二、保育上情緒の教育を如何に取扱ふべきか。

問題説明、情緒の教育は善良なる性情の基礎たるは勿論總ての行爲の根源をなすものたることを信ず。依つて吾々保姆は人生得難き此幼兒期の情緒を如何にして善導すべきかを具體的に事實の上に考究して力強き幼兒教育の實をあぐることに努めんとすこれ本題を提出せる所以。

三、幼兒教育上如何なる方面に主力を注ぐべきか。

尚ほ、倉橋惣三氏東京より來神、講演がある。